



月刊 織本

GEKKAN ORIMOTO

1

2016年1月1日 Vol.257

発行 医療法人財団 織本病院

印刷 〒204-0002

東京都清瀬市旭が丘 1-261

TEL 042-491-2121

URL <http://www.orimoto.or.jp/>

発行人 高木 由利



ジャノメエリカ

最後の第九 “歓喜の歌”

理事長・院長 高木 由利



あけましておめでとうございます。

2015年は新しい患者さんがたくさん来院され、ステキな出会いをさせて頂きました。2016年は更に充実した医療を実践するために全職員が心を1つにして成長していこうと考えております。

* * *

昨年の12月12日には、30年間続いた織本病院混声合唱団の最後のクリスマスコンサートが行われました。いつも100名近いお客様にお越し頂き、私達合唱団員は



楽しい時間を過ごさせて頂きました。

心から感謝しております。

私は昨年の初秋からひどい咳に見舞われ、いわゆる“咳喘息”という状態になりました。3時間から4時間かかる外来の最中に咳が出始め、大切な指導の途中で口も利けなくなる日がありました。吸入薬を始めとし、あらゆる薬を使い何とか1日1日乗り越えてきましたが、週1回の合唱の練習時間には

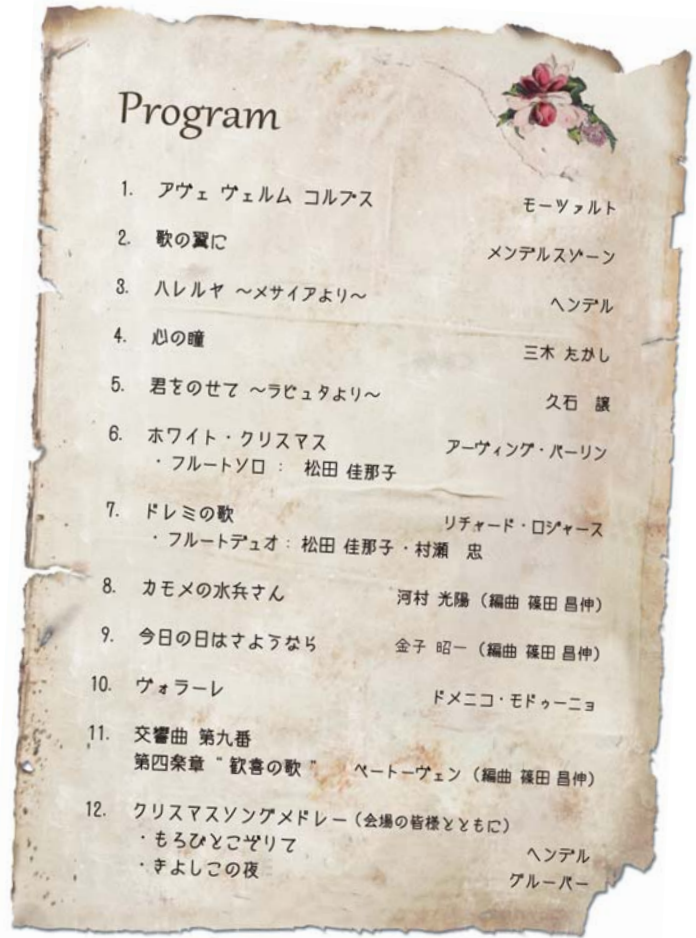
ひどく衰弱し、どんな薬を使っても練習ができない日が続きました。たとえ素人でもお客様に聴いて頂くためには、かなり時間をかけて練習を積み上げるべきだと思うのに、それができない自分に初めて不安を感じました。それに加え、女性団員の高齢化についても考えました。お客様に失礼のないようにするためには自分1人の喜びや楽しみのためのクリスマスコンサートではいけないと思い、11月末に今年を最後に合唱団のクリスマスコンサートを終了させることを団員に伝えました。そして最後のコンサートに向けてより一層の体調調整を始めたのです。

12月12日の本番は全11曲を歌ったのです

が、その最後がベートーヴェンの第九でした。2本の足で体全体をしっかりと支える姿勢、口の開き方、呼吸、自分の体を最善の楽器にして全員が臨みました。篠田昌伸さんのオーケストラのようなピアノ伴奏に支えられ歌った第九は、今迄で最も充実した歌になったと感じています。

“ベートーヴェンが初めて第九を指揮した時、感激のあまり聴衆が総立ちして拍手を送ったが、ベートーヴェンは耳が聞こえないため、その拍手を知らなかった。1人のオーケストラの団員が立ち上がりベートーヴェンを観客席に振り向かせた。”という話を思い出しました。

『ひざまずくか、諸人よ？
創造主を感じるか、世界よ
星空の上に神を求めよ
星の彼方に必ず神は住みたもう』 シラー



今年からは楽器演奏を取り入れた、新しいクリスマスコンサートを企画しております。

織本病院
クリスマス **夢** コンサート

2016年12月10日（土）
是非いらしてください。



新年、明けましておめでとうございます。それぞれの方々がそれぞれの思いで新年を迎えられたことと存じます。

今年の年始は、昨年にも増して暖冬でした。私が幼い頃と比べて気候が変わってきていることを四季の移り変わりを通じて感じています。

1週間も続く今年の猛暑日は、幼い頃にはあまり記憶にありません。これらは地球の温暖化がもたらしたもののひとつですがこのこ

とが、世界中に災害をもたらす要因ともなっています。超大型台風、異常高温、干ばつ、洪水などによる甚大な災害が世界各地で発生しています。このような異常気象は、地球温暖化が原因だと言われています。ある公式な報告書では、過去50年の気温の上昇は自然の変動ではなく人類が引き起こしたものと考えられ、今後も気温は更に上昇すると予測されています。2100年には、最悪の場合に最大4.8度も気温が上昇し、地球温暖化に伴う海水温の上昇による熱膨張と氷河などの融解によって、海面が最大82cmも上昇するというデータもあります。

以前この月刊織本に書かせて頂きましたが、私の祖父は第二次世界大戦の際に東京の錦糸町から菅平高原に疎開し、亡くなる直前まで高原野菜を作り、この地を開拓して来た人でした。45年程前のこの祖父からの言葉があります。「菅平高原の気温が上がってきている。夏でも寒いくらいだったが、暑い日が増え冬の降雪量も少なくなってきた」祖父は勉強家でしたから、高度成長の波に乗り、戦後30年近くなった時に、その後の地球の変化を予測していたのかもしれませんが、今、私達のできることは、節電、節エネで地球温暖化の原因になるCO₂の排出抑制と考え、当院では、昨年、GHP空調機の入替えを多額の経費を投入して行いました。

新春早々から新たな人材も仲間に加わり、4月までには更に医師、看護師の入職を予定しています。早速、1月には昨年末に入職された方々を対象とした新人研修で当院の理念、戦略を共有することから開始します。今年は、組織力と個人スキル向上の年と位置づけていますので今年も楽しみにして下さい。

新年あけましておめでとうございます。

皆さまにおかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。皆さまのおかげで織本病院も無事に新しい年を迎えることができました。

早いもので、2009年に織本病院の副院長として就任してから7回目の新年を迎えました。昨年までも病院組織をより成熟させていくために課題の1つ1つを解決して参りましたが、今年の春には医局に新しい仲間を迎えることにもなり、さらに織本病院を進化させていきたいと思っております。



2016年 元旦の富士山（織本病院4階から）

開院60周年の時も申し上げましたが、この先100年後、200年後も、この清瀬の地で織本病院が地域医療の中心的存在として貢献し続けていきたいとの考えは変わりありません。その様子を見届けることは叶わないと思いますが、いつか次の世代に引き継ぐ時に、“とても良い病院だからよろしく”と胸を張って言える病院を目指し、職員一丸となって努力して参ります。皆さま、これからも織本病院を愛し、温かなご支援を頂けますようお願い申し上げます。



専務理事・事務部長
箕輪 比呂志



副院長
藤木 達雄

第173回 腎疾患ゼミナール新春特別講演会



ショパンの 心と音楽

今から200年前のショパンと同じ時代に生きたシューマンとリストとの交流などを通して、ショパンの音楽の素晴らしさをピアノ演奏を交えてお伝えしたいと思います。

【講師】

ピアニスト 岡田 知子氏

東京芸術大学、デトモルト大学卒業。ピアノを故永井進、小林道夫、シルディ、シュヌア、室内楽伴奏法をヴァイセルボルン、チェンバロをデューリンクの各氏に師事。

1977年1月、旧ベルリン・メンデルスゾーン・コンクール、ピアノ・トリオ部門で第1位。同年10月、ジュネーヴ国際音楽コンクール、ピアノ・トリオ部門で1位なしの第2位。スイス特別賞受賞。以後ドイツ、スイスにおいて多くのコンサートを持つ。シュヴァルツコップ、デ・ロス・アンヘレス、ヘフリガー各氏の公開講座の通訳及び伴奏を務める。80年より草

津夏季国際音楽アカデミー&フェスティバルに参加。ヘフリガー氏、フルートのオーレル・ニコル氏のアシスタントを務める。91年よりチューリヒ夏季マスターコースでもヘフリガー、エーバーハルト・フィンケ(チェロ)両氏のピアノ伴奏を務めた。内外のアーティストとの共演者として、高い評価と信頼を得ている。



2016年

1月21日(木) 12:30 開場 13:00 開演

オリモトホール(織本病院4F) 入場無料